

大正七年十一月八日發行

婦人と子ども

第十八卷

第十一號

日本幼稚園協會

婦人と子ども 第十八卷 第十一號 目次

會長の挨拶(總會に臨みて).....	湯 原 元 一
神話の心理.....	桑 田 芳 藏
人形病院及び人形供養(承前).....	西 山 哲 治
文展の子供.....	倉 橋 生
關の西より(二三).....	楓 二 子
雜 錄.....
會 告.....
諸國お伽話.....

日本幼稚園協會研究部

會名變更

本會第廿三回總會の決議に基き本會名稱を爾後日本幼稚園協會と變更致候之れ
本會存立の趣旨を一層明かにせるものに他なく、會の精神、目的、組織等に於ては
從來と何等の變りたることなく、同一事業の繼續たるは申すまでもなく候。此機會
に於て我國幼兒教育發展の爲に、我協會の爲に、更に倍舊の御盡力を切に御願致候
尙本誌會告中規則變更の條御一覽下され度候

十一月

日本幼稚園協會

會費改正

本會第廿三回總會の決議に基き本會々費左の如く改正致候間御承知願上候

一ケ月 金拾五錢

六ケ月 金九拾錢

一ケ年 金壹圓八拾錢

右は雜誌印刷費の騰貴に基き候ものにて十一月分より實施致候。就ては既に御拂込みの方へは追て追加額御報告申上ぐべく候間其の節御手数ながら追加御拂込下され度候

十一月

日本幼稚園協會

婦人と子ども

第十八卷
第十一號

大正七年十一月八日發行

會長の挨拶

|| フレーベル會總會の開會に臨みて ||

會長 湯原 元 一

今日はフレーベル會の總會でありまして、斯く多數の諸君に御出席を願へたことを非常に幸福に存じます。

今日、私は別にお話し申すやうなことは御座いませませんが、一言、此度び、本會の規則を多少改正したいといふことに就てお話ししてみたいと思ふのであります。

私共は、この度び、本會の會名及び規則の中の幾干に就て改正を加へたいと思ふのであります、これは元より、本會の性質が變るのではないの

でありまして、大體に於ては、これまでと殆んど變りはないわけであります。精神に於て全然變るところのないことは、茲に私がお誓ひ申してもよろしいのであります。

さて、しかしこれまで存在した一つの會がその會名を變更するといふことに就ては相當の考慮が費されなければならぬことは申すまでもないことであります。それで次ぎに一寸、この會名變更の件に就て説明を加へてみやうと思ふのであります。

さて、我々の今まで用ゐて來た本會の會名フレ
ーベル會は、今日になつてみると、多少時勢に合
はぬやうな氣が致すのであります。今日、日本に
於ける我々の事業がフレーベルといふ如き外國人
の名を冠してゐることは何うかといふやうな感がある
のであります。成程、フレーベル氏は幼稚園
の開祖として、今日世界各國の教育者から尊崇さ
れて居るのは今更言ふまでもないことであります。

しかし、それだと言つて、今日の世界の幼稚園
界は著しき進歩發達を遂げて、フレーベル氏時代
のやうな狭い、淺い意義のものではなくなつて來
てゐるのでありますから、これは何とか別の名に
變へた方が本會の事業を益々效果的ならしむる上
から言つて、より適當ではあるまいかと思ふので
あります。殊に日本に於て、特に外國人の名を冠
して置かなければならない程、フレーベル氏の名
が重要であるか何うかは、随分問題であると思ひ

ます。

以上は私が見るに個人として申上げる希望に
過ぎないのでありまして、會員諸氏がこのことに
就て御討議、御研究下さることを祈つて歇まない
次第であります。

一體、幼稚園問題に關しては歐米諸國に於ても
目下盛んに論議されて居るのでありまして、中
には幼稚園無用説を述べ立てるやうな過激な人もあ
る位であります。是等は今日殆んど問題とする
に足りぬ論議であることは今更私の辯明を要さぬ
所であります。日本に於ては、今日にては、幼稚
園の存在の意義を知らない程の迂遠な識者は先づ
殆んど無いと言つてよろしいであります。要す
るに我が國に於ても、將來の幼稚園界が益々多忙
になり、幼稚園が諸所に勃興するであらうことは
火を睹るよりも瞭かであると思ひます。それに就
ては我々が幼稚園のことに就て今からいろいろ研
究して置かなければならないことが澤山あると思

ひます、例へば幼稚園に關する諸制度の制定、保
姆の待遇問題といふやうに、問題は後から後から
と續出するのであります。殊に目下は保姆の待遇
問題などは實際問題として十分討究の必要に迫ら
れて居るのであります、如何せん、肝腎の幼稚
園といふものが教育行政の上から一個の獨立した
要因と認められてゐないのであります、即ち幼稚
園といふものは現行の小學校令の附帶條項として
極めて簡單に取扱はれて居るのであります、それ
ですから、今日、保姆の待遇は小學校教員と同等
にまで引き上げたいなどと言つても、極めて出し
抜^ぬけな、唐突なこととして迎へられるのでありま
す。

小學校令中に一行か二行に書かれてゐる幼稚園
をもつと教育系統中に於て認められたるものとす
ることが必要であります、その外に尙、政府が、
文部省が幼稚園に對して何んな態度を取つてゐる
かを知らねばなりません。而して私達が政府に對

して、文部省に對して要求すべきものがあつたら
要求しなければいけません。求めなくつてはいけ
ないのであります。當局者としても相當に私達の
仕事に目をつけてゐて下さることは勿論でありま
すが、私達が聲を立てなければ、その聲に應じて
下さるわけには行くまいかと思ひます。當局の方
々もいろいろの方面に多忙であるべきを私達は察
しなければならぬのであります。

幼稚園は今日では殆んど私立に任せられて居
ります。それにしても、この私立の幼稚園に對し
て一定の完備した規則が必要であります。幼稚園
は尙多くの公共團體によつても設立せられなけれ
ばなりません。市町村立の幼稚園が個人經營の幼
稚園の他にもつと出來てもいゝわけであります。
幼稚園といふものはもつと社會政策的の意味を持
つて來てもいゝと思ひます、托兒所と幼稚園とは
その内容外形に於てあまり差別のないやうなもの
となる方が社會政策的には有意義であると思ひま

す。歐羅巴に於ては托兒所と幼稚園とは殆ど同じもの、やうに考へられてゐます。モンテッソリー女史の「子供の家」なども貧兒救済のためでありまして、矢張一種の社會政策の現れとみることも出来るのであります。モンテッソリー女史も富裕階級の幼兒ばかりを扱つてゐたならばあの發見もなかつたかも知れませんが、ローマの新開町の貧兒を集めて、あれこれと、幼兒の生活の改善に努めた爲めに、特殊の教育的方法を案出し得たのであると思ひます。

以上に申し述べましたやうなわけで、幼稚園事業は何うしても社會政策の一つと見られるのであります。私は、或ひは一步進めて、亞米利加と同じやうに、幼稚園の設立を市町村の義務の中に加へたら何うかとさへ思ふのであります。

幼稚園に於ける教育も、家庭に於ける教育も、その精神に於ては互ひに一致するのでありますが、その取る所の教育的方法に於ては、幼稚園には幼

稚園の特色と便宜があり、家庭には家庭の特色と便宜があります。幼稚園といふものは家庭以外にあつて、而かも家庭とあまり違はぬ教育を行ふところであります。それですから幼稚園といふものは何うしてもそれ自身として十分な發達を遂げなければなりません。

私は、幼稚園教育までも、公の力で行ふことが必要であると思ひます。今では小學校教育までは公の力で行はれてゐるのでありますから、一段下つて幼稚園教育まで公の力によつて行ふやうになつたら何んなにいゝかと思ひます。更に下つて胎教までも公の力で行ふやうになつたならばその時こそ、國家の教育制度は始めて一貫した完全なものとならうかと思ひます。このことは母權の保護のために當然政府が行ふべきものでありまして、獨逸などでは既に行つて居るのであります。

教育界の大體の趨勢が以上の如くであると致しますと、幼稚園の將來が益々旺んになるといふこ

とは申すまでもなからうと存じます。

たゞ私の遺憾に思ひますのは、幼稚園の孤立して居ることであります。幼稚園は小學校に對しては形式的には連絡がありますが、精神的には連絡がありません。幼稚園の教育は萬事が創作的で、何處までも自然を害はぬやうになつて居り、幼兒に獨立獨行の習慣をつけるやうに努めてゐるのであります。極めて理に積んで居ります。小學校へ行くと、もうこの幼稚園の教育説は連絡を失つて了ひます。小學校になると、生徒はもう受身であります。何でも教師に教へられて之を覺えて行くことが主となります。中學校に行つても、生徒は主にも受身的の教育を受けます。しかし大學へ行くと、受身ではなくなり、大體幼稚園と同じ精神のもとに學生は自由討究を行ふのであります。つまり一番下の幼稚園と一番上の大學とは同一精神に基く原理に従つてゐて、その中間の小學校と中學校とは注入教育に依つて居るのであります。幼稚園が幼兒の創作能力の鼓吹に努めて居るのは實に卓抜な見識であります。私は今幼稚園で行はれて居る原理をすつと上に引きあげて行つ

て、之を小學校にも、中學校にも應用することによつて、教育上の問題の大部分は解決せられはしまいかと思ふのであります。幼稚園の教育説は教育上のいろ／＼の新運動、即ち作業主義や人道主義とも一致して居るのであります。

幼稚園の原理なり、方法なりは、今日に於ても既に十分に考察されて以上の如く進歩したものと成つて居るのであります。この上とも、十分の上にも更に十分に研究して、全教育系統の第一階梯に於ける根柢をしつかりと築くやうに努力したいと思ひます。

以上述べ來りましたところは會員諸氏に對して申上げることとしては所謂釋迦に説法のたぐひとなるのであります。これによつて私が皆さんと同意見を懷抱するものであつて、今後我が國の幼稚園研究のために微力を盡さうと心掛けて居るのであることがお分りになつたらうと存じます。

以上、今日の總會を開くにあたりまして、一言皆さんに御挨拶を申上げる次第で御座います。

(文責在記者)

神話の心理

東京帝國大學文科
大學助教授文學士

桑 田 芳 藏

私はお話をすることが極めて拙でありますので、斯ういふところへ出てお話することはあまり氣が進まないのですが是非にといふおたのみでありましたので、出てまゐつたわけであります。それで先づ話し下手のところは御辛抱願ふとして、本題に入るのでありますが、私の今お話し致さうとして居る「神話の心理」といふ主題は皆さんの従事していらつしやる御仕事と多少關係のある主題であると思つて、特に選んでまゐつたわけであります。

先づ、神話は想像作用の産物であるといふことを申し上げます。心理學の方では、見るは、た、ら、きと、か、聞、く、は、た、ら、きと、か、乃、至、聯、想、と、か、言、ふ、や、う、な、は、た、ら、き、は、い、ろ、く、の、機、械、を、用、ゐ、て、實、験、し、調、査、す、る、の

であります。が、想像や思考のはたらきはかなり複雑なはたらきでありますから、實驗を用ゐて之を精密に研究することは不可能であります。それですから想像作用を研究するには想像作用の産物を捉へて研究するのであります。つまり、神話といふやうな現象を捉へて、その中にはたらいてゐる心理作用を調べるのであります。これは心理學の研究方法の一つでありまして、言語を捉へてその中にはたらいてゐる思考作用を研究するといふやうな場合と同じであります。先づ以上のやうなわけで神話を想像の産物と見るのであります。歴史的の譚とか野蠻人の間に行はれてゐる話とか、斯ういふものを借り物にして、その中に入つてゐる想像作用を調べるのであります。

神話を神話そのものとして歴史的に研究することも出来ませう、例へばこの神話は何處に發生して、如何なる経路をたどつて、何處に傳へられたかといふやうな研究も行はれるのであります。しかし、こゝでは神話を心理學研究の材料として扱ふのであります。

さて、神話といふ言葉でありますが、その言葉は誰が作つたものか知りませんが、あまり適當な言葉ではありません。日本には昔八百萬の神々があつて、それらの神々に關する話があります。これらの話を一口に神話と言へば言ふのであります。が、今學問上で神話といふのはそれよりももつと廣い意味を持つて居ります、尤も日本の昔の神話のやうなものが、神話の大部分であることは言ふまでもありませんが、神話が之にのみ限られると考へてはいけないのであります、もつといろゝくの話の總括して神話といふのであります。英語に所謂 *myths* であります。

それでは何ういふ話を神話といふか、といふことが問題になつて來ます。⁵²この問題に對しては神話の種類を舉げればいゝわけであります。それで次に少しく神話の種類に就てお話し致します。

先づ第一に靈魂の觀念であります。靈魂といふやうなものが實際に存在するとは吾々は考へません、しかし人が死んだ時に何か魂たましひといつたやうなものが其處等邊にふはゞしてゐるのではあるまいかといふやうなことを今でも考へる人があります。昔は無論斯ういふ考へがあまねく行はれてゐたのであります、今でも南洋の土人、アイヌ、アフリカの土人、臺灣の土人の中には靈魂の考へが著しく行はれてゐます。是等の土人の間に於ては靈魂は夜その遺族のところに見れます、而して多くの場合遺族に害を加へるのであります。斯ういふ風な靈魂とか幽靈とか言ふやうなものも神話の一種と看做すのであります。誰の幽靈といふやうに決つた人の幽靈でなく、たゞ何となく古い家な

どになると「おぼけ」が出るなどといふ噂が立つたりすることがありますが、斯ういふ風に人々が勝手にその想像力で拵へ上げたこはいもの、おそろしいものをもすべて神話とみるのであります。

第二には魔物、魔の觀念であります。この著しい例は我が國の鬼であります、大きな角を生やしいこはい顔をし、手足は毛むくぢやらで、赤い皮膚を持つものと青い皮膚を持つものとの二種があります。その他魔まの例としては大人おほひと、小人こひとなどといふたぐひもあります。小人は日本にはあまりありませんが西洋には小人の話がよくあります、よく圓錐形の帽をかぶり、ヒゲを地面の上まで垂らし年寄みたいな子供みたいな得體の知れない顔附きをして居ります。斯ういふ魔の觀念も神話の一種と見られるのであります。

第三は動物を自分の祖先であると考へることであります。つまり自分の祖先は動物から出てゐると考へることなのであります、現今の文明人の

間にはさういふ考は少しもありません、しかし我々の祖先や現今でも野蠻人の間には斯ういふ考があるのであります。AならAといふ人の祖先がカングルー系統を惹いてゐる、と斯ういふ風に考へるのでありますから我々には一寸見當がつけかねます、中には熊を自分達の先祖であると考へてゐる野蠻人もあります。斯ういふ風に彼等を選んで以て自分達の先祖とする動物は單に彼等の想像を根柢として居るに過ぎないのであります。この考も神話の一種であります。もう斯うなつて來ると神話の神などといふことは全然當籤らなくなつて來ます。

第四は我々の祖先の心靈が今尙いづれかに在つて我々と交渉を持つて居り、我々を加護し、監督するといふやうに考へるのであります。この考が矢張神話の一種であります。

第五は神話の中で最も重要なもので、自然神話と名けられるのであります。日の神や嵐の神や

夜の神やが出て来て互ひにいろいろの交渉をするのであります。日本の古代神話をはじめ歐羅巴の古代神話も皆之に屬します。古事記や日本書紀にある神話はかなり發達した神話でありまして、この域に達する前のもつと幼稚な神話があるのであります。それは現今野蠻人の間に存して居るものであります。一番簡単な自然神話の形式はメルヘンであります。メルヘンは普通童話と譯して居ますがあまりいゝ譯ではありません、メルヘンは大人の野蠻人が喜んで聞くものでありますから童話といふのは少し當りません、私はメルヘンを小話と譯して用ゐやうと思ひます、小話といつても近頃文壇で問題にしてゐる小咄とは違ふのであります。自然神話にはいろいろ種類がありますが、大體に於て次の三種に大別することが出来ると思ひます。

- (1) 動物に關する小話
- (2) 天上に關する小話

(3) 人間の運命に關する小話

動物に關する小話の一例として亞米利加のポニー(野蠻人の一種)の間に行はれてゐる神話をお話し致しませう、

一人の少年がその遊び仲間から離れ、森の中へ入つて生活してゐました。しかしその少年は或日のこと、牝の水牛をつれて歸つて來ました。その水牛は少年の妻だつたのです。而して二人の間には子供までありました。然るに是等の人々の間には不思議な習慣がありました、といふのは子供を地上に落とすと、その落した母も子も水牛に化して了ふといふのです、ところが不幸にしてさういふことが起りました。而して少年の子供は、水牛になつて了ひました。その少年は悲しんで森に行き自分も水牛になりました、而してしばらく安樂に暮してゐましたが又不圖人間になりたくなつて、元の人間になりましたこの少年は水牛になつてゐた頃、狩獵の秘密を

水牛から教つたので、水牛取りが特別に上手でした。それ以來この種族は水牛を取ることが上手になりました。

この話の行はれてゐるポーニー族は水牛を食料としてゐる種族であります。斯う云ふ取りとめのないやうな話が發達してインツブのやうなものとなるのですが、インツブのやうなものになるとも、う人が本當のこととは信じません、しかし今お話ししたやうな筋ですと野蠻人の間に於ては反つて本當のこととして信じられるのであります。

次ぎには第二の天上に關する小話の例として北米の土人の間に行はれてゐる神話をお話しいたします。

天上の會長日の人といふものが二人の美しい娘を持つてゐました、日の人はその娘に結婚させることを嫌つて、求婚者を片端から殺して予ひました。さて又茲に晴天といふ名の別の會長がありました。晴天は二人の息子を持つて居りま

した。晴天はその息子に「そんな風に用もなく毎日ブラ／＼してゐるならば日の人の娘の婿にでもなるやうに運動したらよからう」と言ひました。子供は成程と思ひ、天にのぼる矢梯子を作りました。この矢梯子といふものは何うして作るかといふに、先づ一本の矢を天に向つて放しますとそれが天に突きさゝります、今度は第二の矢を第一の矢の矢筈に突きさゝるやうに放し第三の矢を第二の矢の矢筈に突きさゝるやうに放します。斯くの如くにして矢梯子が出來上るわけであります。二人の兄弟は矢梯子を攀ぢ上つて天に達しました。兄弟は盲女の一群に出會しました、盲女達は兄弟に日の人がなか／＼陰謀をめぐらすからそれにかゝらないやうにといろ／＼の策を授けました。兄弟は不思議な房を以て盲女の目をなほしてやりました、するとその女達は鴨に化けていづれへか飛び去つて了りました。兄弟は尙も進んで行く中に、自分達

の祖父さんにあたる鶴に出會しました。鶴は不思議なまじなひによつて兄弟のお尻を石に化してやりました。やがて兄弟は日の人の娘のところへ達しました、日の人の姉妹娘は晴天の子供の兄弟を愛し、結婚しやうと思つて、自分達は晴天の子等と結婚したいと父に申出でました。

日の人は晴天の子を婿にするには試験を経てからでなければいけないといひました。兄弟は先づ第一の試験として針鼠の上に坐らせられました、兄弟のお尻は石になつてゐるのですから平氣で針鼠の上へ坐ることが出来ました。其他尙いろゝの試験を課せられたのでありますが兄弟は魔術を心得てゐましたので皆首尾よく及第しました。日の人は尙兄弟に薪を取つて來るやうに命じました、而してその留守に啄木鳥と兩頭の蛇に命じて兄弟を殺さしめやうと致しましたけれども兄弟はこの陰謀の裏を搔いて啄木鳥に日の人の眼を突き出させ、蛇にその眼を呑ま

せて了ひました。日の人を殺し之を地上に投げ棄て、了つた兄弟は日の人の姉妹娘と結婚しました。

右の如き話は天然神話のもとをなすものであつて、太陽とか晴天とかを主人公と致して居ります。

次ぎには第三の人間の運命に關する小話の例として亞弗利加のカファア人種の間に行はれてゐる話をいたしませう。

一人の青年シクルメといふものが旅をして居りました。お婆さんの注告によつてシクルメは石に油を塗つて携帶して居りました。シクルメの後から鬼が澤山追駈けて來ました。シクルメは油を塗つた石を鬼の群に向つて投げました、鬼は油の匂ひを嗅ぎ之を奪ひ合ひました、而して一匹の鬼はこの石を呑んで了ひました、するとこの石を呑んだ鬼を他の鬼が呑みました、その鬼を又他の鬼が呑みました。鬼がこんなことをし

て居る間に青年は自分の行く手と反對の側に外套を投げて、自分の行く手を晦まし、ドンドン進んで行きました。青年は途中で一人の友人に會ひました、その友人は青年に魔術を教へました。青年は友人から教つた魔術によつてあたりに落ちてゐた石を拾つて之を小屋に化へ、その中に入つて居りました。やがて鬼が追駈けて來て小屋ごと青年をバクリと呑んで了はうとしました、けれども小屋の正體は石でしたから鬼は齒をこはして了ひました。青年は尙旅をつづけて或る村に達しました、この村の人々は水中の怪物に惱まされて居ります、青年は村の人々を助けるために怪物を退治てやらうと決心して水中に飛び込み、わざと怪物に呑まれます、而して怪物の腹に穴をあけて、これまで呑まれてゐた村の人々を外へ出してやり、自分も出ました。青年はこの怪物の皮を剥いて家に持ちかへり、姉と妹にたのんで、その皮を以て外套と草鞋を

作つて貰ひます、而して遠方に住んでゐる會長の娘の愛を求めするために又旅立ちます。青年は會長の娘の氣に入りました。しかし青年は娘の母親のために鹿にされて了ひました。幸ひに娘が鹿を水の中に入れたら又元の人間になりました。青年と娘は玉子と牛乳袋と壺と石とを携へて駈落をしました。娘の父親が驚いて追駈けて來ましたので、青年は玉子を投げつけました、すると急に濃霧が生じてあたり一面眞白くなつて了ひました。青年と娘はドン／＼逃げて行きます、父親は又々直きに追ひ附きさうになりました、青年は今度は牛乳袋を投げつけました、すると急に大水が出て父親は追駈けて來られなくなりしました。青年と娘はドン／＼逃げて行きます、父親は又二人に追ひ附きさうになりました。青年は今度は壺を投げつけました、すると急に眞暗になつて了ひました。その次に又追ひ附かれさうになつた時には青年は石を投げつ

けました、するとその石が急に大きな岩になつて了つて。父親はもう何うしても後を追つて來ることが出來ないやうになりました、それで青年は酋長の娘をつれて故郷にかへりました。

右は人間の運命の變り易いことを説いて居るのであります、玉子を投げると濃霧が生ずるといふのは玉子の白味の色と霧の色とを聯想したのであります、壺を投げつけると暗黒になるといふのは、牛乳袋を投げると大水が出、石を投げると大岩になるといふのは、いづれも誇大して考へたのであります。

自然神話の形式としては小話に次いで、傳説といふのがあります、普通に傳説といふと廣い意味になります、が嚴密に傳説といふ字を用ひやうとすると一寸面倒であります。小話ですと時も所も不定で、出來事も荒唐無稽不可思議極まっています、而して主人公は大抵子供か若者であります。然るに

傳説ですと主人公は大抵壯年で、時と所ももつとはつきりして來ますし、不可思議なこともずつと少なくなつて來ます。日本の昔の神話に於ける素盞鳴尊が出雲の簸ノ川上で八岐の大蛇を殺して叢雲劍を得、櫛名田姬を娶られたといふやうな話は傳説に屬するのであります、これは「昔々あるところに」といつた程度に漠然とした話ではありません。希臘の神話、英雄譚、ホーマーの「イリアード」「オデッセイ」ヘラクレスの話等も皆傳説であります。ヘラクレスの話を一寸搔抓んでお話ししてみますと、ヘラクレスはゼウズの子で、生後二ヶ月目にもう二匹の蛇を片手に一匹づゝ捉へて之を握り殺すほどの怪力を有してゐました。ヘラクレスは長じて、アポロから矢を貰ひ、その他の神々から劍や甲冑を貰ひます、さうして十乃至十二の冒險をするのであります、即ち獅子退治や野牛退治をします、又ヒドラといふ多頭の蛇を退治たり、半人半馬のケンタウルといふ怪物を退治たり

荒馬を鎮めたり、アマゾンといふ女軍と戦つて、その帯を分捕つて來たり、或る王の所有する牛小屋で三千頭の牛が入つてゐて三十年間も掃除せず
に放棄してあつた手のつけられぬ程きたない牛小屋を一日の内に掃除したりします、又地獄へ行つて猛犬ケルベロスと戦つたり、巨人を締め殺したり龍を退治したりします、又巨人アトラスに代つて地球を肩の上に擔いてゐてやつたりします、まア斯ういふやうな話を傳説の見本とみることが出来るのであります。

次に小話、傳説に次いで、未來世界に關する話も亦神話の一種と見られるのであります。未來世界に關する話は自然神話の最後の形式であります。我が國に於ても太古は「とこよのくに」若しくは「よみのくに」といふやうな考へが祖先の間に行はれてゐたやうであります。かの有名な話であります伊弉諾神が伊弉册尊を冥府に訪ねられた話などはこの例となるのであります。伊弉諾神は伊

弉册尊の死を悼まれ、夜見國へ行かれますと夜見國にも現世と同じやうに家がありました、しかし燈がついてゐませんから何が何だか薩張り様子が分りません、それで一軒の家の中をのぞいて見ると丁度うまく伊弉册尊が居られました、しかし尊の上に雷神がのしかゝつて居たので、伊弉諾神は驚いて現世へ逃げ歸られました、その時伊弉册尊は豫ねて伊弉諾神にのぞいてはいけませんと約束してあつたのに、それを守られず、自分に恥を與へられたと言つて大いに憤られ、大勢の醜女をして伊弉諾神の後を追はしめられたのであります。それから先きは略しますが、とにかく人間が死んで後の世界に關する想像から産まれた話は自然神話の最も進んだものであります。こゝまで來ますと神話と藝術との關係がかなり密接なものであることは自然と分つて來るのであります。例へばホーマーの詩を讀んでも神話が一寸分らないやうなところもあります。しかし神話と詩の區別は

明かにつくわけでありませぬ。神話には信仰が伴ふのです、しかし詩其他の藝術には信仰が伴ひませぬ、誰も本當だと信じはしません。ただ慰みとして讀むだけです、そこが違ふことになるのであります。ホーマー時代、若しくはホーマー以前の人々には「イリアード」や「オデッセイ」に書かれてあることは本當のこととして信せられてゐたに違ひありません。それは彼等の間に於て「イリアード」や「オデッセイ」が神話として取扱はれて居るからであります。しかしワグナーのオペラの中に出て來る不思議な世界を誰も本當とは信じません、しかしそれは藝術として世人から喜び迎へられます。

次ぎはいよいよ神話の心理のお話となります。

神話は何故に生ずるかといふ問ひに對して、ある一派の人々は智的要求より起るといふのであります、これはあまり信を措くことは出來ない説であります。未開時代に於ける人類は智的要求よりは寧ろ感情、意志の方面の要求から神話を生むと

みる方が至當であるやうに思ひます。

我々の想像作用の一種に合活想像といふのがあります。つまり活いき合あむる想像である、河なり山なりを自分と同じやうな生命のあるものと考へる想像であります。これは性格がはつきりしてゐる場合には擬人想像と言つてもいいのであります、合活想像と言つた方が意味が廣くて、都合がいいと思ひます。大暴風の物凄こわい景色とか人の死ぬ様とかいふやうな自然なり人生なりに人間が對すると感情が強く起ります、而してこの強い感情を外に向つて投出します。例へば心内に起つた怖おそしいといふ感情を外に出して了つて、何か怖おそしいものが外にあるやうに考へます。運命の恐おそしさを經驗するとおそろしい運命といふものが自分以外に存在してゐて、自分を支配するやうに考へるのであります。これは皆合活想像の作用によるのであります。以上で神話を喚び起す心理作用は合活といふことであるといふことはお分りになつたらうと

思ひます。而してこの心理作用は必ず實在の感じを伴ふのであります。つまり神話を起す想像の二つの特性として、合活といふことゝ實在の感じといふことゝが數へられるわけであります。斯る心理作用が幼児心理の中にも著しく現はれるといふことは皆さんも既に御承知のことゝ思ひます。子供は木きれを合活して、之に話しかけるのであります。子供は又好んで神話を聞きたがります。神話でないまでも藝術的の假作話を好みます。これは子供の合活想像の要求を充たすからであります。

子供の想像と野蠻人の想像とはよく似てゐます。しかし子供の精神發達と野蠻から文明に至る人間の精神發達とを平行してゐると考へるのは少し違ふと思ひます。何故といふに一方は子供の發達であり、一方は生理的にも身體的にも大人である人間の發達でありますから、其處に於て明かに違ふわけです。野蠻人は大人ですから社會的生活

や性的生活を營んで居ります、しかし子供には未だ斯る生活は芽ぐんで居りません。それから又子供の方から言ひますと、子供は生れながら文明人の大人の側で育ちます。それ故文明の影響を受けます、つまり環境が文明的であります。それ故子供の精神作用の發達は早いのであります。子供の眞の精神發達を調べるためには子供を南洋の離れ島にでも連れて行つてかたす鳥にでも育てさせながら實驗しなければ分らないといふやうなことになります。これはあまり極端な話で無論出來ない相談であります、斯うでもしなければ、子供特有の幼稚な精神發達を一步々々に研究することは六ヶ敷いのであります。未開から文明へ達する道程に於て自然な精神發達があるわけです。未開人の發達と子供の發達とは各の發達を考察する場合に互ひに相補ふ便利はありますが、この兩發達の順序は全然平行して居るものではありません。

次に述べることは餘論としてありますが、

子供に聞かせる話の材料として文明人間に行はれてゐる話のみでなく、これまで例にあげたやうな野蠻人の間に行はれるやうな話をも少しく變形して、取り入れてみたら何うかといふことであります。尤も野蠻人の話を集めた便利な本は未だないやうであります、或る程度まで集つて居るのでありますからこれを利用されたい、と思ひます。

第二には子供に聞かせる話だからといつて、あまり合活法を用ゐすぎると反つて効果を薄めるやうなことになるやうです。野蠻人といへども何でも彼でも合活するのではありません。特に自分の感情を激發させるものだけを合活するのであります。子供もこれと同じことであります。子供は話を聞いてゐる時には遊んでゐる時ほど合活想像を働かせません。藝術的の童話でもグリムあたりはまだ子供に分ります、しかしアンダーセンやアラビヤン・ナイトになると子供の擬人想像を誇大視してゐるために反つて子供には難解となり、従つて喜ばれません。アンダーセンの「錫の兵隊」などは子

供にはあまり面白い話ではありません。

第三に子供に聞かせる話は科學や道徳に拘泥する必要がないといふことであります。科學や道徳のことを矢笠しく言ふと子供の想像の世界を破壊することになります。子供には野蠻人と同じくまだ今日の發達したる科學も道徳もないのであります。矢梯子などといふものは科學的には決して出来るものではないのであります、子供の世界に於ては、これが可能なこととしてあつて一向差支ないのであります。又自分の姑となるべき日の人の眼玉を啄木鳥に突き出させ、剩へそれを蛇に食べさせて了ふなどといふことは以ての外の不道徳ですが、斯う話さなければ野蠻人には面白くないのです、しかし斯ういふ際立つた不道徳はそのまま我々の子供の耳に入れるわけには行きませんから、そこは少しく匙加減を要すること、思ひます。何うせ教育のことですから子供の本性にのみ従つてゐてはいけないのであります、さればと言つて子供の想像作用を抑へて了ふやうなこともいけないと思ひます。(文責在記者)

人形病院及び人形供養

(承前)

帝國幼稚園長 西山哲治

人形供養

人形病院といふものが幼児の感情教育の上に必要缺くべからざるものであることは既にこれまで述べた通りであります。さて人間の病院に於ては入院患者の大部分は全快して、葬出度く退院するのであります。中には病氣が手後れになつてゐて、何うしても快復の見込のつかない場合もあります。

丁度これと同じやうに、人形病院に收容される人形は、どんなにひどい病状を呈してゐるものでも、殆んど全部、療治されて、元の健康體に復するのですが、中には全然快復せしめる術のない程にひどく痛んで居るのがあります。斯ういふ人

形は何うしても生き返らすことの出来なくなつた人形として扱ふのであります。即ち生命を失つた人形、死んだ人形として之を厚く葬つてやるのです。この死んだ人形を葬つてやるといふことも亦幼児の感情教育の上から見て非常に大切なことなのであります。斯る意味から私は去る九月十四日第一回の人形供養を行つたのであります。今その時の模様を次ぎにお話しいたしませう。先づ當日の式の順序は次の如くでありました。

人形供養儀式順序

- 一、敬禮
- 二、人形病院の歌合唱
- 三、讀經
- 四、吊文

生徒一同

志賀淳信師

校長西山哲治

五、人形供養の歌合唱 生徒一同

六、人形に生花を捧ぐ

七、女兒三度宛土をかぐ

八、敬禮

以上

讀經は近くの東福寺の住職志賀淳信師を煩はしました。吊文は私が朗讀いたしましたので、その全文は次の如くであります。

吊文

抑々日本は人形の國也。其起源の古き、其種類の多き、其製法の巧みなる、其取扱法の發達せるこれを美術品として見るも、我國の雛及び人形は實に世界一とも稱すべし。

日本の人形は殉死の身代となりしより起り。爾來人の病魔凶事を身に引受け、或は天兒、あまご、こ、この如き、母の安産の爲め、又は子供の爲めに犠牲となりて海に川に流されたる例あり、雛祭及び端午の節句祭りに於ては子女の人物崇拜の的

となり、内裏様を祭るは兩陛下の御眞影を拜さしむるにも齊しかりし也。誠に人形は子供の爲めには善き家庭教師にして、女兒の爲めには家事を教ふる又なき良教師なり、豈尊敬せざるべけんや。古き歌に、

兩親にもらつた裸人形へ疵をつけず持つが孝行

の一首あり。又古き句に、

神代より紙雛二人、三人見す

とあるを見れば、一夫一婦、又は夫婦和合の家庭道徳を巧みに具體的に教へ得たるものといふべし、子女教育上貢獻多き人形を尊重するの精神と子供が人形を生命あるものとして取扱ふことを波みて大正二年秋本校に帝國人形病院を設立して今日に及び、手術を加へたるもの既に三千に達せり。

此に手術の及ばざる人形を集め、子女教育のため、貴ぶべき職に斃れたるものとして、感謝、

追悼の精神により、本日人形供養の式を営む、子女のために教育をつくして倦まざりし今は亡き人形に厚き感謝の意を表さんとて、此式場に於て一言を述ぶるを喜びとするもの也

人形供養の大正七年九月十四日

帝國小學校長
帝國人形病院長 西山 哲治

又當日生徒一同の歌ひました人形供養の歌といふのは次の如きものであります。

人形供養の歌

私の可愛い人形は お腹をいため手をいため
とうとう人形病院で かなしいことになりました
ほうのえくぼの愛を だつこをすればお手を
あのまあない人形は かなしいことになりました
こは可愛い、私の 小さい人形のお墓です
お墓にうめてねえに 人形供養をいたしませう
當日埋めた人形は全部で十五本でした、内三本
は西洋人形でありましたがその他は皆日本人形で

ありました。一番大きいのが二尺、小さいのが二三寸位でありました。十四本は帝國小學校及び帝國幼稚園の生徒の持つてゐた人形でした、一本は神田の某氏が私達の催しを新聞によつて知られて葬つてくれと言つて持つて來られたもので這ひ人形でした。是等の人形は皆手足がなくなつてゐるか、臺灣坊主みたいになつてゐるか、ひどいものになると首がないとかいふやうな人形でした。

運動場の一隅に是等の人形を葬り、そこに柱を樹てました、而してその表面には「爰人形供養塔者爲羯曼界會開曉得脱資糧矣」と認め、裏面には「維時大正七年九月十四日帝國人形病院建之」と認め、右側面には「一佛成道觀見法界」、左側面には「草木國土悉皆成佛」と認めました。

溝口伯は香奠として金一封を贈られました。

人形供養の儀式は極めて莊嚴に行はれました。子供達は僧侶の姿態、讀經の聲、香のかをり等によつて形づくられるこの場の氣分によつて十分に宗教的感情に導かれました。このことは子供達にたしかにいゝ感化を與へたことゝ私は信じます。

(文責在記者)

文展の子供

倉 橋 生

今秋の文展には子供を描いた繪に注目し値するものが可なりある。昨年は取り立て、言ふ程のものもなく一回休んだが、今年は例年の此の記事を續けることが出来る。

觀てあるく部室の順を離れて、私の印象に一番残つて居るのは、菊澤武江氏の『迷藏』と島成園女史の『日ざかり』とである。どちらも同じ程に惹きつけられた中にも、どつちかと言へば『迷藏』(第十室)の方が一層強く私の心をひいた。但し之れは畫中の子供それ自身よりも畫面全體の構圖、子供を中心にして言へば、つまり其の背景が大に與つて居るのかも知れない。兎に角く支那の寺院の伽藍内で三人の子供がかくれんぼをして遊んで居るのである。我國でいふならば、『もういゝよ』と

言つて居る處で、壁の後に隠れて居る二人、兎になつて、片目を手でかくして太い柱の側に立つて居る一人、どつちも實によく其の心持が捉へられて居る。伽藍の大きさから子供の可愛らしさが、伽藍の嚴かさから子供のあどけなさが、心にくい程巧なコントラストを借りて描き出されて居る。そして、いつも私の口癖にいふ子供の眞剣さが、可愛らしさ、無邪氣、といふ様な兒童性と共に充分よく出て居るのが何よりも嬉しい。私は此の畫の前に立ち止つて、三人の子供を交るゝちつと見て居る間に、私は識らずゝ私の頬に浮んで來る微笑を禁ずることが出来なかつた。此の微笑は私が眞實の子供の遊びを、傍でそつと見て居る時に、いつも浮び出る、あの眞實な微笑と同一のものである。實際此の三人の子供は繪の子供でなくて、眞實の子供である。私は此の作を、近年の文展の子供繪中、最も傑出したものゝ一つとして充分に尊敬したい。子供を描く爲に子供を構想しな

いで、子供をそつと眞實のまゝに存して、しかも此立派な全體の構想を立て、ある處が、私の子供繪を観る第一標準に合して居るのである。

そこへ行くと成園女史の『日ざかり』(第五室)は大分畫家の構想で子供を繪に仕立て、ある。それだけに、子供繪としての第一條件の『子供をその眞實のまゝに存して』といふ眞卒さに於て多少缺けて居る。少くも『迷藏』に比してそうである。但し之れは子供繪に對して、餘り嚴格な標準を立てる私に限つての過敏な感じかも知れない。兎に角、巧みな繪である。その巧の中に子供が實に巧みに取扱はれて居る處は、此の作の萬人の感嘆をひく點である。傘屋の店さき(此の一事が既に何といふ巧者な取材であらう)五つの傘がひろげて干してあるのを畫面の中心にして、左には十二三の女の子がもう一本の傘をひろげようとして向ふをむいて立つて居る。其の體つきから足具合、之れが成園女史の名でないにしても、すぐ大阪の女

の子と氣のつくに相違ないあざやかな手法である右の方には店の上りがまちに腰かけて二人の子、四五歳に二三歳か、姉の方がうとくと居睡つて居ると、弟の方が指をくわへて姉の體に寄り添うて居る。ひろげられた白い傘、向ふをむいて居る女の子、居睡つて居る子、だまつて指をくわへて居る子、全體が、あの眞夏の午後のかあんとした様な、一種の閑寂を實にくよく描き出して居る子供繪といふ見方からしても、三人の子供にそれくゝの個性をはつきりと持たせてある處は、同じ作者の従來の子子供繪より格段の進歩といふべきである。たゞ全體の構想の餘りに氣がきいて巧みな爲に、子供の爲に子供を描いたといふよりも、『日ざかり』といふ氣分の一つの巧みな小道具に使はれて居る様の感のするのは免れない。但し、これは強いて嚴密に子供繪として見ようとするからの言ひぐさで、此の作の藝術價それ自身に何の關係のある問題ではない。いづれにせよ、此の畫家が

いつも子供を取扱つて必ず成功して居る處に、吾々としてはなつかしい親しみと、將來の期待を感せずには居られない。

次に、疋田芳沼氏の『小子部』(第七室)と吉田千種女史の『をんごく』(第二十四室)とが、作といふよりも畫題に於て私の興味を惹いた。『小子部』は例の小子部が椽端に腰をおろして、庭の地面に樂書をして遊んで居る多勢の子供を見て居る處である。私はこれが我日本の幼稚園々長の元祖といふべきであると思ふと、いろ／＼のことを考へさせられた。併しこれは美術展覽會とは關係のないことであるから茲には略する。たゞ此の畫を貰ひ受けて、私の幼稚園の主事室に置くことが出来たらと、勝手な、そして慾ばつたことを考へたことだけは、茲に白狀して置く。『をんごく』は大阪の盆の行事の一つで子供が群をして町を練りあるく風習を主材としたものであるが、それを正面から描かないで、その子供の群を店の格子戸の中から一人

の娘が眺めて居る處を描いた處に此の作の趣向がある。後ろ向きの大阪娘を大きく描いて、大阪の盆の町の氣分を却てよく浮き出させた手際は敬服すべきものである。子供の描寫が少しも主になつて居ないのであるから、子供繪として特に注意すべきものではないかも知れないが。子供を大きく描かないで、兒童生活の一つの味を巧に出して居る處に、子供繪としても一種の面白味があるといへる。

西洋畫の方では龜高ふみ子女史の『ダニエルの話』(第十五室)と新井完氏の『驢』(第十六室)とが目につく。『ダニエルの話』は聖書掛圖を後ろに三人の女の子が長椅子に並んで腰をかけて居る處で、三人とも年齢相應な氣分の違ひが一通り描き分けられて居る。たゞ私の勝手な感じをいふならば、三人とも其の表情が、聽いて居る表情といふよりも、視て居る表情になつて居る様な處がないでもない。といふと言葉が強過ぎるが、つまり、

耳よりも目が、しかも其の目が、お話を聴いて居るよりも何か實物を見て居る風のある處が、この畫題として措しいこと、思ふ。殊に白がすりを着た一番年長の子の目がそうである。但し、これは随分無理な注文なのかも知れない。『驢』は敢て子供を主にした繪ではないが、驢をひいて立つて居るあの赤服の支那兒童の、うつとりとした様な、ぼかんとした様な處に、いふにはれぬ面白味がある。こういう點も亦確に兒童性の一つとして存する處で、そこを何の巧みもなく、超然とした筆つきで描いてあるのが至極嬉しい。

彫刻では、建島大夢氏の『滿二つ』と北村西望氏の『將軍の孫』とが、子供を主題にした二つであつていづれも實に傑出した作品である。腹掛け一つでよろ／＼と歩いて居る、おかつばさんの女の子。これが滿二歳で、シャツ一つにお祖父様の大きな長靴を足一ぱいに股迄穿いて、大將らしく擧手の禮をして笑つて居る男の子。これが將軍の孫である。私は此二つを見て、つく／＼思つた。子供は繪によりは彫刻に向く主題かも知れないと。實際

子供の身體及び其の心持ちの大切な特色である。まるみといふものを、此の二つの彫刻に出て居る程、繪に於て出すことは六かしいとに相違ない。それにしても此のまるみ、やはらかな面のふくらみ總ての部分の動き。何とよく出來て居ることであらう。子供繪が、どうしても概念的になり易い處を、此二つの彫刻が、しつかり個體的になつて居るのも何といふ立派なことであらう。

○今年夏期の文部省主催保姆講習會へ出席せられた方々へ

夏季の文部省主催保姆講習會へ出席せられた方々には、粘土製作實習の講師として新海竹太郎氏の温容と、堀進二氏のあの製作に熱心なる態度とは今尚ほ眼底に新たること、思ひます。今年の文展の彫刻室に場を歴して立つて居る大傑作の中に、新海氏の『金平化物退治』と堀氏の『支柱』及び『老人』とがあります。『金平化物退治』は、あの昔物語の傳説から題をとられたもので、筋肉逞しき勇猛の偉丈夫が、化物の首筋むづと握つて立つて居る處。『支柱』は男と女と二人並び立つて頭の上の大きな重い岩をさへへて居る處。いづれも、強さ、意力、といふことを主にしたものです。又『老人』は老齡の人の極めて平和安静な心持ちを、あらはして居るものであります。新海氏のは審査員の出品として、更めて讚辭の呈し様もありませんが、堀氏の此の傑作が名譽ある特選になつたことは、親しく同氏の實習を受けた方々と共に、大に祝賀したいと思ふのであります。(倉橋生)

關の西より (三)

楓 二 子

◎

江戸堀幼稚園では、是迄夏季中に、保婦が採集した材料を、九月に皆んなが集つた時に、幼児と共に觀乍ら、其自然物を採つた山や海や川や野や或は避暑地の風光や旅中の物語や東の勝景西の名所思ひくゝに其時のお話を幼児と共にするのが此園の保婦達の一つの娯樂とされてゐました。

處が今年と同園の膳先生が御考案にて同様の事が家庭と共同に行はれたのであります。

其自然物を九月初旬に子供等に與へて、思ふ通りの遊びをなされました。其時に出來た種々の型を取つて保婦が其獨創的のもの色々と調節して美的に排べて小さい子供の展覽會を開かれました。

私は一日それを拜見したくつて膳先生に御伺ひ申しました處、御快諾下さいましたので昨日みせて戴きました。

いつも江戸堀研究會が開かれる室の丸卓子の上に、實に眼もさめる様に美しく貝殻がいろくゝの型につくられてありました。

『まあ澤山な貝です事、こんな貝は何處から御集めで御座りました!』

『これは私達保婦が、此夏休みに、淡路へ行つたものは淡路海岸で採集してまゐりましたし、田邊へ行つたものは田邊で拾つて來りました。又卒業生の方で紐育市にゐられる方が御座りまするが、その方からはこんな奇麗な、珍らしい貝を送つて下さいました』

『随分遠方からで御座りますね』

『まだその外に、近くは紀州海岸の貝、土佐の海の貝、徳島、遠い處では琉球や千島や朝鮮の海の貝まで御座ります』

と問答の間々に、一つ一つ、其具殻を指さされ乍ら、物語られました。

『此砂も橋立や松島や越前やと言ふやうに方々から送つていたゞきました、又この木の實も廣島から送つて下さつたのです。此美しいウニの殻は若狭から下さいました』

『まあ先生は御園の卒業生や、その他先生に御近づきの方々が澤山お有りですし、又保母の方々も先生と御一緒になつて、自然物に對する趣味が深くいらつしやいますので、ほんとに御結構で御座りますね』

『誠に皆さんが御親切にして下さいますので……』と御謙遜なる御言葉でした。

膳先生は是等は幼兒の純自由な生活に對して何よりもよい材料であり、そして之を幼兒の獨創的表現を以て直に陳列してやるよりも、少しく調節して、その子供から學んだ處を、美的に配列するなり、又色彩を一寸ほどこしてやるなりして、陳

列してみせてやりますと、大變によるこびますといふ意味のお話でした。

『淡路に行つた子供は、こんな面白い大砲をこしらへて、砲臺だと云つてゐます。御覽下さい、石の上に一寸貝をのせた位です。ほんとに子供の考へといふものは、面白いです。イカの甲で舟をうかべたり、帆立貝でうちわをつくつたり中には貝の中へ一寸法師の人形を入れて地藏さんですといふて拜んでた子もありました。之は地藏祭が先日すんだ計りですから……』お話はそれからそれへとつゞきました。

飛行機や火鉢や釣舟や蓄音機や様々の材料が美しく排べられてありました。

膳先生が御親切に中食を共にせよとの仰せにて東の人も西の人も南も北も心に何の嘘も何の空な處もなく、幼兒といふ一點に集中し充實し、而かも面白い有益な御話を伺つて一つ丸テーブルにて御飯をいたゞきました。

林檎をむかれ乍ら先生は御言葉をつまげて

『誘導といふ事の一面にはたしかに子供から學んで教へられて、それに教育者といふ立場から調節してやるといふ事が大切であると私は思つて居ります』と申されました。

私は此御言葉が何となしにうれしく耳にひびきました。

たしかに誘導といふ事は、子供から學んで、そしてそれから誘ひ導く道程を示してやらねばならぬものだと思つて考へました。

私達が膳先生と御話をしてゐると、時といふものが無い様です。

時はすん／＼憎らしい様に經つて了りましたので、御忙しい中を先生がわざわざ御指導下さいましたことを厚く御禮申し上げて同園を辭したのは薄暮でした。

或人が幼稚園のプログラムをつくるのには次の四つの事を考へねばならんと云つてゐます。その

四つとは、

1 The Children, their needs and experiences
(子供等——彼等の經驗と要求)

2 The Aim of the work
(此仕事の目的)

3 The Agencies by which this aim will be attained, often designated as "Subject matter."

(此目的が達せらるゝ手段通例題目と呼んでゐる事)

4 The method of procedure
(取扱ひ方法)

でありました。此事を思ひ浮べながら、うれしい生々した氣持で、電車の人となりました。

◎

夏季中幼稚園を開放して、保姆が交互に出勤し自由に登園し來る幼兒の保育をするといふ事は、大都市の中に於て、殊に狭い家屋や車馬の頻繁な

街路に放置されてある生活よりも、數倍の効果があるといふ事は、何れの人も肯定する處で御座りませう。

近頃斯ういふ事がその園でも、この園でもで行はれる様になつて來たのは、悦しい傾向であると思ひます。

美津幼稚園では、毎日各組交代に召集して、庭の御池で水泳が行はれてゐました。

夏になる迄は砂場であつた處が、一夜の間に變化されて水道の水が満々と流れるほどたゞへられて居りました。

其水は毎日がへるし、勿論その度にお池は清潔に掃除されます。

白い着物(特に園にて作られた水泳服)を着て、二階の大廣間から、うれしさうな顔つきで、いろ／＼の水遊用玩具を持つて降りて來ます。暫くすると、皆はわい／＼聲を立て、よろこび乍ら、盪舟に乗つたり、**或は油屋ごと**をしたたり、様々の遊

びが行はれます。

適當な時間、適當な水の溫度、それ等に對しては時計や溫度計を以て、常に綿密な注意を怠らない小山園長が佇立んでゐられます。

水遊が終ると、風のあたらない氣持のよい日和のよい處で胴から下をあたゞめ乍ら各自の持つて來たタオルで身體を摩擦し乍らふき取りました。

暫くして、少しばかりの馳走や遊戯が遊戯室で行はれて、正午前に皆悦び乍ら園の門を出ました。私は大都市の子供——而かも水といふものに對する興味が深い幼児がかくしてでも、それは海に行くものに比べれば、極僅少ではあるが、少くとも何等かの効果を、おさめ得るだらふといふ感がありました。

私の希望としては、絶えず醫者の監督の下にあつて、充實した身體教育が幼兒期から行はれん事でありませう。

鞆幼稚園——此園に於ては小久保保母が主席の方であります。

此幼稚園も夏季開放を行つた處であります。

此園では毎日三四十名の登園者を、各自思ひ／＼に自分の好きなお部屋なり、運動場なり、遊戯室なり、山なりで、然も各自好める遊びをさして、楽しく一日をすごされたのであります。

實際生活に近いものと保母の一人が語られる商買遊びや、其他沙干狩とかいつて、砂場に貝の大小いろいろのを入れてあるのを搜したりなどして遊んだり、又一方では描き方や粘土細工や切紙細工や、そこここに分割的に五人十人の集團を作つて遊んでゐられました。

同園の保母達は、これで開放を二年やります。

いろいろと年々面白くなり、又殊に今夏の倉橋先生の御話による分割保育の効果に對する研究上、大に愉快を感ずると申されて居りました。

◎

私が四國路さして下關行急行列車に乗つたのは九月十二日の夜でありました。尾ノ道から松山市に道を取つて、高知に出て、それから徳島讃岐と渡る計畫でしたが、途中に急用が出来ましたので其半をも達する事が出来なかつたのは残念でありました。次ぎに少しくこの旅の印象を書きませう。

松山市には二園あります。一園は白堊の幼稚園で、縣廳に行く道すがら、右側の大きい建物ですもうすでに時が遅かつたので、皆かへられた後と覺しくあたりはひつそりとしてゐました。

山路こゝしき松山街道を雨に濡れて高知縣には入りました。

高知縣には幼稚園は市部に二つ、郡部に一つあります。

高知第一幼稚園といふのは、高知市に沿ふた鏡川といふ美しい清い流をへだて、筆山と呼ばれてゐる緑こき山を向ふの庭つづきに見た處で、景色のよい事は他の幼稚園ではとてもみられない程

美しい處にあります。主席保母には嘗て大阪に奉職してゐられた田村先生がゐられます。

園舎の設備は實に悪いですが、幼兒の愛らしいのと、保母達の聖い天職に努力してゐられるのとは、國は異ふとも、處はへだつるとも、いづくも同じ事でありませう。

唯私は市視學の西山氏にも御眼にかゝり、幼稚園の事について、いろ／＼と御話を交へましたがたゞ／＼交通上の不便から文化に遅るゝ事と刺激の少ない爲に、氣をゆるめ安くて、退歩がちになりやすいので、こまりますと申されてゐました。

私はものゝ進歩といふ事も、或は教育でいへば其効果といふ事も、不斷の努力の集積の多寡によりて、評價されるものだと思ひました。

此園の片隅に小さい記念碑が立つてゐて、傍に公孫樹の木が植つてゐます。

伊豫で泊つた時に、伊豫なまりのある若い保母の方が記念碑の傍にゐられましたのでお尋ねして

みましたら、其記念碑は高知市の幼稚園に於ける最效績のあつた本田保母の記念碑ですとの事であつた。

何と美しい事でありませう。本田某氏の魂は永久にこの園に遊ぶ子等と共にあるでせう。

私は澤山の記念碑や銅像をみてゐます。それらの多くは人の眼につく處に、いかにも大きい形で表示されてあるものであるが、この銅像はたゞの尺餘の石に何事か刻まれたる些少なものはあるが何となしにゆかしい何事かを語つてゐる様に思はれました。

此光榮ある記念碑を庭に有して、且その中に毎日働いてゐる若い保母の方々の御胸の中に、はたして此本田某の様な終始一貫、その愛すべき天使の爲に、捧げるべき命があるでせうか？熱誠が燃えてゐるでせうか？不斷の研讀がつまれてゐるでせうか？

私は只それを望んでやまないのです。外からの

刺激のないにまかせておては、そのまゝ眠つて下
ひます。停滞せる水はくさります。外から刺激が
なくば内からの衝動に覺める事を忘れてはいかぬ
と思ひました。

高知市には、更に一つの幼稚園があります。そ
れは市立第二幼稚園とて、村井主席保母が活動し
てゐられます。

私は其園では僅かばかり保育を拜見しました。

緊張した氣分と確固たる自覺とはいまの幼稚園
一般から消えてゆく様な傾を有つてゐます。私は
此氣分も此自覺も、ただ或一つの興味といふ事を
忘れてゐるから起らないのであると思ひます。興
味といふ事を忘れてゐるのではありません。若い
保母達には興味が生起らないのです。幼兒教育に興
味が起らないのですから自覺も緊張も出來て來な
いのです。

それには一つの大きいなる原因があると思ひます
『子供から學べ』といふ大切な事を忘れてゐるから

だと思ひます。

私は此園に來て更に痛切に感じました。

私は高知市の洋々たる大海に面した國、波の花
美しく咲く南の國に、その天使とたはむるゝ尊き
教育者が、日も夜も、其すべてを捧げて、活動せ
られてゐるのは、たゞく感服と感謝の外はあり
ませぬが、たゞ一つ『子供から：：』といふ事を
忘却せぬ様にして、更に子供の研究に一步をふみ
出していたゞきたいと思ひました。

兩園和衷協同互に銳意幼兒研究に意を用ひ幼兒
期教育の眞價値も近き日に於て多くの人々に認め
られ、更に數倍、數々倍の園の増設の近からん事
を祈る次第であります。

研究心あつき美しき國の建設者たる西山視學に
よりに益々保母會が發展せん事を祈り乍ら、私は
急に用件の都合で、神戸直行の船に乘りました。

九月二十一日、

天高く白雲の飛ぶ日、私等の同じ途づれである

保姆方々に送られ乍ら、一搖一搖と船路が遠くなりました。

かへりみすれば、高知の山々は秋旻の下に、くつきりとその姿を浮び出させて居ります。あの綠なす岡のかけには、無垢の幼児と、やさしきこれが保育者とは夢もまどかに、すこやかな生活を營んでゐるのです。

さらば、幼きものゝ名に依つてつながる私の友よ、同胞よ、卿等の上に幸多かれ！

雜 錄

第二十三回フレーベル會總會

フレーベル會の第二十三回總會は去る十月十二日(第二土曜日)午後一時半より、東京女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開かれました。會の順序を申すと先づ本會々長湯原元一氏の挨拶を以て當日の會は始められました(本號卷頭參照)次いで議

事に入り、倉橋主幹の當日の議題たる會名變更の件に關する説明及び開會前に出席者一同にお頒ちした規則改正草案に關する説明がありました。當日の議事は本會評議員久留島武彦氏の動議によつて幹事附託といふことになりました。(當日の議事の結果に就ては本號の「會告」及び「會員諸君へ」の二記事を御見落しないうやうに願ひます) 議事が事なく濟んで少憩の後、講演「神話の心理」が東京帝國大學文科大學助教授文學士桑田芳藏氏によつて行はれました。(この有益な講演はその大要を筆記して本號に掲載してあります。)桑田氏の講演の終りたる後、別室に用意せられたる茶菓を喫しながら會員諸氏が懇談に耽けられんとした頃にはもうそろそろお互ひに顔がよく見えない位の暗さになり、午後六時頃には會員諸氏はすつかり歸途に就かれました。

會 告

十月十二日開催本會第二十三回總會の決議の決
果本會規則を左の如く改正相成候間此段御通知申
上候

日本幼稚園協會規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ
目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係ア
ルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金拾五錢ヲ齎出
スベシ。會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ

受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益

アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコト
アルベシ

第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業

ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方
委員トナスコトアルベシ

第七條 本會ハ毎年四月總會ヲ開キ、二月、六月

十月ノ第二土曜日ニ例會ヲ開ク。但場合ニヨリ
例會期日ヲ臨時變更シ又臨時休會スルコトヲ得

第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、幼兒教育ニ關スル研究及ビ調査

一、幼兒教育ニ關スル講演會及講習會ノ開催

一、雜誌發行(毎月一回)

一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行

一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事

件

等九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク。

會長 一名 會務ヲ總理ス

主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理

ス

幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分

掌ス

評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ

諮詢ニ應ズ

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

第十一條 主幹、幹事、評議員ハ二ケ年ヲ期シテ

會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應ジ特ニ委員ヲ設ケ又ハ

書記ヲ雇入ル、コトアルベシ

第十三條 此規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上

ノ同意ヲ得ルニアラザレバ變更スルコトヲ得ズ

會員諸君へ

本會名稱變更と共に益々斯道の爲に盡力致し度
いと思ひます。雑誌『婦人と子ども』も來年一月
號より『幼兒教育』と改題、内容の改善も圖り度
いと思つて居ります。此の機會に於て一名にても
會員の増加致しますことは、本會事業發展の上に
何より喜ぶべきことであります。就ては現會員諸
君より御知人の間に御勧誘下さる様切に願ひ
致します。『幼兒教育』は幼稚園の問題を主と致し
ますけれども、學校教育家は勿論、一般家庭にも
参考となる様の材料をとり入れて、廣く幼兒教育
全體に亘つての雑誌にし度いと思つて居ります。
會員としても、幼稚園關係の方は勿論、家庭の方
々をも廣く歓迎するのであります。

諸國お伽話

(左の諸篇は Eleanor I. Skinner And M. Skinner 兩氏編 "Nursery Tales From Many Lands." にある)

日本幼稚園協會研究部

○三人のお友達

或處に鼠と腸づめと豆の三人が、小さいお家に一緒に住んで居ました。毎日二人づつ外へ出て働いて、一人がお留守番をして、晩の御飯のおしたくにスープをこしらへました。或日、鼠と豆が、腸づめに

「あなたは三人の中で一番上手にスープをこしらへるけど、一體どうしてするのですか、聞かせて下さい」と、云ひました。腸づめは、

「それはかうするのです、お湯がグラ〜煮たつて來た時、私はドブン、と鍋の中にとびこんで一度か二度かけまはるのです」と云ひました。鼠は

感心して聞いて居ましたが、「私もして見よう」と獨り語のやうに云ひました。小さい豆はハッハッハと笑て居ました。

次の日、豆と腸づめは外へお仕事に行きました。そして鼠はお留守番をして、スープをこしらへる役でした。鼠はスープをこしらへながら、

「さう〜、腸づめが云つたやうに煮たつて來たら、お鍋の中を一、二度かけまはりませう、きつとおいしくなるに違ひない」と、獨語を云つて居ました。其の中お湯が煮たちましたから、鼠は鍋の中にはいりました。二度どころか、鼠は一度でスープの中へ沈んでしまひました。

夕方、豆と腸づめがお家へ歸つて來ました時、

鼠は居ませんでした。家中、方々さがしましたが姿も影も見えませんでした。「私達のお友達はどうしたんでせう」と、腸づめは、心配しました。豆は「まあ、行つて晩のスープでも食べませう」と云ひました、そしてスープのお鍋をあけて見たら留守の間に、何が起きたか、お友達がどうなつたか皆解りました。

「まあ、可哀さうに鼠はスープの中へ沈んでしまつた」と腸づめが云ひました。

「スープの中へ沈んぢまつたつて、馬鹿な鼠だなあハッハッハ、、、豆はいつまでも、あんまり笑たので、背中がはぢけてしまひました。豆は大急ぎで、靴なほしの處へかけつけました。靴なほしは黒いつぎ布をあてて縫てくれました。それからといふものは豆の背中にはきつと黒いものがついて居ます。

腸づめは豆のやうに笑ひませんでした。淋しうに戸口の處に坐つて、「可哀さうなく鼠さん」

と云て泣き出しました。すると、犬が道を歩いて居ましたが、この前へ来ると立ち止て腸づめさん、あなた何を泣いて居るの」とたづねました。

「鼠が可哀さうにスープの中へ沈んでしまつたのです。可哀さうで、泣かすには居られないんですもの」とポロ／＼涙をこぼしながら云ひました。

「まあ、鼠がスープの中へ沈んでしまつたつて、ぢや私は泣きながら道を歩いて行かう」と云ひました。途のそばの垣根が、犬に、

「犬君、／＼、なせ君は道を歩きながら泣て行くの」と、ききました。

「鼠がスープの中に沈んでしまつて、腸づめが戸口に坐つたきり泣いて居るんですもの、どうして僕ばかり泣かすに居られるもんですか」と犬が云ひました。垣根は、

「まあ、鼠がスープの中に沈んでしまつたつて、ぢやあ私は道ばたに倒れやう」と云ひました。そばに生えてた木が、「垣根さん／＼、なせあなたは

そんな處へひつくりかへるの」とききました。垣根は、

「鼠がスープの中に沈んでしまつて、腸づめが戸口に坐つたきり泣いてゐるんです。それで犬が途々泣いてゐるんです。どうして私ばつかし知らん顔して居られるもんですか」と云ひました。

「まあ鼠がスープの中に沈んだんですつて、ぢや私はこの流しへ木の葉を落さう」と云ひました木の下には小さい流しのそばに水道のくひが立て居ました。風も吹かないのに急にハラ／＼と木の葉が落ちてきました。水道はびつくりして、

「まあ木さん／＼、なぜあなたは私の上になさう木の葉を落すのですか」と、ききました。

「鼠がスープの中に沈んでしまつて、腸づめが戸口に坐つたきり泣いて居るんですもの、犬は道々泣くし、垣根は道ばたにひつくりかへるし、どうして私ばかり知らん顔して居られるもんですか」と木が云ひました。

「まあ、鼠がスープの中へ沈んだんですつて、ぢや私は水道の水を出しつばなしにしよう」と水道が云ひました。そしてどん／＼水道の口から水が流れました。水汲みに来た女中がびつくりして、

「まあ、水道さん／＼、どうしてそんなに水を流すの」とききました。

「鼠がスープの中へ沈んでしまつて、腸づめが戸口に坐つたきり泣いて居るんですもの。犬は道々泣くし、垣根は道にひつくりかへるし、木は葉を落すし、どうして私ばかり知らん顔して居られませう」と水道が云ひました。「まあ、鼠がスープの中へ沈んでしまつたつて、ぢや私は手桶をこはしてしまはふ」と、女中が云ひました。それを見て居た下男が、「もし／＼、なぜあなたは手桶をこはすんですか」とききました。

「鼠がスープの中へ沈んでしまつて、腸づめが戸口に坐つたきり泣いてゐるんですもの、犬は道々泣くし、垣根は道ばたに、ひつくりかへるし、木

の葉は落ちるし、水道は水を出しつばなしにするし、どうして私ばかりかし、知らん顔して居られませう」と、女中が云ひました。

「まあ、鼠がスープの中に沈んだんですつて、ぢやあ、私は世界中をあつち、こつちかけまはりませう」と云つてかけ出しました。

それから今でも、下男はせつせとかけまはつて働いて居ます。(ドイツお伽噺)

○野山に住む者

はてしなく廣い野原に、大きな牡牛の頭の骨が雨風に晒されてころがつて居る。これを丁度いゝ住家にして其中に小さい二十日鼠が澤山住んで居る。

歌の聲

「元氣なく二十日鼠

小さい鼠は寒くない

暖で氣もちがいい」

廣い原の、地平線下に日が沈むと、空には星が一ツ二ツ、だん／＼宵暗になる。二十鼠の住家には、美しい、よく光る燈火が、ともされる。鼠の踊りが、はじまる、歌の聲がまたする。

歌の聲

「元氣なく二十日鼠

小さい鼠は寒くない

暖かで氣もちがいい

おどつて、うたつて、

ウイオー、ウイオー」

星の影一つ／＼失せて、眞暗になる。冷たい風が吹く。チラ／＼、雪が降り出す、湿つぱく、だん／＼強く眞白にもる。二十日鼠の住家のみあかるく、楽しさうに、歌たり、おどつたりする。鼠の聲たえずする。

歌の聲

「ウイオー、ウイオー」

やがて、雪の上をポツ、ポツと飛ぶ者がある。よく

見ると大きな白兔。後足を揃へて一齋の前に立つので、足跡がたつた一ツにしか見えない。ポチくと妙な足跡をのこして飛びまわる。時々後足で立ち上り、前足を垂げ、耳をピンと後にあげ。まんまいる目で方々キヨロくと見まわす。其内鼻をむしや／＼擦り何かブツ／＼云ふと。あつちからもこつからも。澤山の小兔がよつて来るそして、牛の頭の骨のまわりをビヨン／＼おどりまわる。

歌の聲

「元氣な／＼二日鼠

小さい鼠は寒くない

暖かで氣もちがい、

おどつて、うたつて

ウイオー、ウイオー」

白兔「何だらうあの妙な聲は、風が吹くと聞こえる。
る。

ああ、あれは二十日鼠の歌に違ひない」

やがて大きな白兔真直に後足で立ち上り。大き

な聲で、

「行けッ」

四方八方へちり／＼ばら／＼に小兔ども飛で行く。

あとへ、やせた灰色の狼、のそり／＼と来る、兔の足跡を嗅ぐ、鼻をフン／＼させながら、ふさ／＼した尾を後へさげて、あちこち嗅ぎまわる、しばらくして止つて坐る。今雲間から出た月に向て物凄く咆える。空腹を満す爲に兔を食べたい様子。兔はとうに遠くへ飛んで行つて見えない。ただ鼠の歌が小さく、かすかに聞えて来る。

「元氣な／＼二十日鼠

小さい鼠は寒くない

暖かで氣もちがい

うたつて、おどつて

ウイオー、ウイオー」

風にさそはれて異た聲がきこえる。

大な鼻「ホ、タア、ホ、タア」

森の方へ狼いそぎ足に行く。鼠の住家の燈火は消えて、子鼠達寢間にいそぐ。母鼠は梟が燈火のついた鼠の住家を見付け出したことを氣付いた様子。

母鼠「早く、早く、」

子鼠どもみんな、寢間にいそぐ、歌の聲も踊のさわぎもばつたり止む。

朝が来る。大きな梟は翼の下に首を入れ、まんなるな二つの目をつぶつて睡つてしまふ。鼠のさわぎ出すのはもう梟には見えない。子鼠どもは元氣よく起き、木の實をさがしに、チョコ／＼かけまわる。

歌の聲「ウイオー、ウイオー」

風にさそはれて、かすかに。だん／＼近く他の聲がする。

「ヒッ、オ、キッ、オ、ヒッ、オ、キッ、オ、」

向ふから、棒の先にあみをつけたのを持つて土人の子供達がかけて来る。やがて大きな梟をつか

まへ、家へつれて歸る。太い棒くひに梟をしばりつける。梟はそこで晝の間は日の光をまぶしさうにまじ／＼して居る。夜になると鳴き出す。

梟の聲「ホ、タア、ホ、タア」

その時、土人の子供達は牡牛の毛皮につままれて、火のそばに枕をならべて寝てしまふ。

外には雪が眞白に降りつもる。

白兎が飛びまわる。

やせた狼が月に咆える。

そして元氣な鼠がうたひ出す。

「ウイ、オー、ウイ、オー」

(北アメリカ土人のお伽噺)

會 告

○會費御拂ひ込みの節は名前は初め御入會の時の御名前へと御同一になし下され度く、假令ば初め幼稚園名にて御入會、後個人の御名前へにて會費御拂込み等のことなき様必ず願上候。整理上甚だ煩雜致し候につき右特に御注意願候

○會費未納は會計整理上甚だ困難致候に付確實に御納付下され度向後萬一御不納久しきに亘り候場合は乍遺憾雜誌發送を停止可致候間左様御含み置願候

○會員諸君にて御轉居等の節は至急御一報願上候

○萬一本誌不著等のこと有之候折は直に御一報煩し度候

本誌定價

一册 郵税共金拾六錢 六册前金郵税共九拾錢
拾二册同金壹圓九拾錢 郵券代用 一割増

購讀申込

本誌購讀御希望の方は右定價表により振替貯金にて御拂ひ込み下さい。直に送本致します。(振替口座東京一七二六六番)

大正七年十一月五日印刷納本
大正七年十一月八日發行

東京府豐多摩郡代々幡村大字代々木山谷一二四
編輯兼發行者 倉 橋 惣 三

印刷者 東京市本所區番場町四番地 守 岡 功

印刷所 東京市本所區番場町四番地
凸版印刷株式會社本所分工場

發行所 東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日本幼稚園協會

本誌は最も平易な、最も教育的な子供繪雜誌たるべく苦心して居ります。

コドモ

編輯顧問 高嶋平三郎先生

幼垂 雜誌 良友

本誌はコドモの兄様姉様に當り、小學生の讀物として最も適當な雜誌です

明治三十四年一月廿八日第三種郵便物認可(毎月一回一日發行)

婦人と子ども 第十八卷第十一號

大正七年十一月五日納本發行
大正七年十一月八日發行

印刷所

凸版印刷株式會社本所分工場

近來子供雜誌や繪本類が非常に多くなつて、既に二三十種に達してゐる。

世の父兄諸氏は、この多くの同種中、はたして何れを子弟の爲に選べるゝであらうか。單に玩具と見做して、その選擇を慢然兒童の取捨に一任して置いてよいであらうか。

發行所 東京市小石川區 小石川電話 六一八二 一八九二

社モドコ

東京市小石川區
番七十五